

感染症の予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O111）				
年齢及び性別	60代・女性	職業	介護職員		
住所	津市				
発病年月日	令和8年3月11日				
診断年月日	令和8年3月18日				
<p>（患者発生の経過）</p> <p>3月11日 腹痛、下痢の症状がみられた。</p> <p>3月14日 津市内の医療機関Aを受診。</p> <p>3月16日 津市内の医療機関Aを受診。</p> <p>3月18日 3月16日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。</p> <p>現在、患者に症状はありません。</p>					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（津保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
患者	29	34	32	24	1
保菌者	23	23	12	7	2
計(感染者)	52	57	44	31	3
<p>※2026年1月1日～2026年3月19日現在まで本件含む</p> <p>2026年内訳 患者：O111（1人）</p> <p>保菌者：O103（1人）型不明（1人）</p>					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					